

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4~5面 新婦人と農民連の産直運動30年/ジェンダーリレー講座/ホットライン
- 6面 5Gって?/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/性的話



石川・金沢市 長谷川典子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

新しい署名スタート! いまこそ、少人数学級を



SDGs 持続可能な開発目標

「コロナの危険の中で学ぶ子どもたちに少人数学級を」署名呼びかけ人メッセージ(1・2面)



署名のHPより

著名な教育研究者の12人が呼びかけた署名が、瞬く間に共感を集め、広がっています。「コロナの時代に、子どもを大切にしたい学校を子どもたちに」と、安心・安全な少人数学級の実施と、授業を詰め込みすぎない学校生活の保障を求める署名を集めて、政府に実現を迫ります。分散登校で経験した少人数学級を「新たな日常」へ。一人ひとりを大事にする教育への転換はこの署名から始まります。どうぞ、ご協力ください。

前川喜平さん・本田由紀さん
山本由美さん・鈴木大裕さん



安倍首相が思い付きで号令した全国一斉休校。子どもたちが被った苦難は学校再開後も続いています。互いの間隔を空けなければならぬ。給食は黙って食べる。フェイスシールドを着用させ

私たちから子どもたちへの最大の贈り物に

現代教育行政研究会代表 前川喜平さん

難は学校再開後も続いています。互いの間隔を空けなければならぬ。給食は黙って食べる。フェイスシールドを着用させ

また、学習の遅れを取り戻すためとして、7時間授業、土曜授業、夏休みの大幅な短縮、修学旅行などの行事の中止が行われ、子どもたちの学校生活からゆとりや楽しさが奪われていきます。授業の詰め込みすぎは本当の学びにはなりません。

1学級60人も珍しくなかった戦後の「すし詰め」学級。その解消のため1958年、「標準法」が制定されました。1963年までの5年計画で50人学級、1968年までの第2次計画で45人学級が実現。1991年までの第5次計画では40人学級が実現しました。ところがその後、少人数学級をめざす政治の動きは止まってしまいました。2011年に小学校1年生だけ1学級35人以下とする標準法改正が行われましたが、その後また10年近く止まっています。



1人ひとりを尊重する学校の実現を

東京大学教授 本田由紀さん

日本の教育の問題点は、「学力」や「人間力」によって子どもたちに優劣の差をつけていく「垂直的序列化」と、特定のふるまい方や考え方や感情方を強制する「水平的画一化」の圧力が、著しく強いことにあります。これらに押しつけられる形で、個々の子どもの関心・意見を尊重する「水平的多様化」はきわめて弱いのです。

拙著『教育は何を評価してきたのか』(岩波新書)でも論じたように、こうした問題は根深い歴史的背景をもっています。しかし現時点において、「垂直的序列化」と「水平的画一化」が存続し、悪化さえしている重要な要因は、各学級の児童生徒数が他の先進諸国と比べても明らかに多いということにあります。多数の児童生徒にき

め細かい指導ができないために格差・序列が生じ、また大人数の児童生徒がそれぞれ自己主張を始めると教室内の表面的秩序が崩壊するおそれから集団への画一的同調が強いられているのです。以前からあるこうした問題に、新型コロナウイルス感染症の流行は、生命・健康が損なわれる危険という新しい問題を付け加えました。混み合った教室内での感染リスクへの対処は、待った無しの課題です。これまで長く求められ続け、教育への公的支出を抑えたい財務省に阻まれ続けてきた少人数学級を、今こそ教員の増員によってできるだけ早く実現し、個人を大事にする指導と生命・健康の安全を子どもたちに対して確保することが、私たち大人の果たすべき責任です。

8月13日号は休刊です

